

# 巻頭対談

■特集 理念と伝統をよりどころに変化し続ける大学でありたい



キリスト教を  
体感した  
関西学院での時間が  
原点にある

**大橋** 宮原理事長は関西学院の理事長としては4人目の民間企業出身者ですね。

**宮原** 経済界で働いていたときの私のものの考え方や行動の原点には、関西学院のスクールモットーが基本にあるような気がします。ですから、民間企業からの転身とはいえ、大事にしてきたものは、学生時代からずっと同じだったということです。幸い、私が在籍した会社の創業者もベッツ先生の時代の原田の森の卒業生で、企業経営に“Mastery for Service”のモットーが反映されていたように思います。関西学院OBの社員にも、そのことを伝え、引き継いでくれるように頼みました。

**大橋** 理事長は私と同じ、1962年に商学部を卒業されています。どんな学生でしたか。

**宮原** 残念ながら学生時



対談者：宮原 明 関西学院理事長（左）  
大橋 太郎 関西学院同窓会会長（右）

## 理念と伝統をよりどころに変化し続ける大学でありたい

関西学院は2014年に創立125周年を迎えます。現在、2009年から2018年を期間とした「新基本構想」を推進。長い歴史の中で共有してきたミッション（使命）とスクールモットー“Mastery for Service”を再確認した上で、それを体現する世界市民の育成を力強く展開しています。併せて、オール関西学院ファミリーが集う創立125周年記念事業も着々と準備が進んでいます。

輝く未来に向けて前進を続ける関西学院の新たなかじ取り役にこのたび就任された宮原明理事長と大橋太郎同窓会長に、学院や同窓会が目指すものについて語り合っていました。

は自分のベースだと思いきい、これからも大切にしたいと思っています。

**スマートなイメージは大切にしたい上でさらに変化をする努力を続ける**

**大橋** 2013年4月に理事長に就任され、関西学院の経営に携わることとなりましたが、まずやろうと思われていることは何でしょうか。

**宮原** 関西学院のパブリックイメージはひと言で言えばスマート。知的で行動力があるスマートさ、と言いますが、クールにもつながるかもしれません。そういう雰囲気はもともとあると思います。そしてこれからも、そのスマートさは大切にしていかなければなりません。

その上で、今やらなければいけないことは、変化することです。今がよい状態だからといって変わらないでいると、相対的にみると、





宮原 明 学校法人関西学院理事長  
1962年3月、関西学院大学商学部を卒業し、富士写真フイルム株式会社に入社。1971年富士ゼロックス株式会社へ移り、代表取締役社長、代表取締役副会長を務めた。  
このほか社団法人経済同友会幹事（1995年4月～2006年6月）、学校法人東京女子大学理事（1999年3月～2008年3月）、学校法人国際大学副理事長（2003年5月～2013年3月）、学校法人国際大学理事（2003年5月～現在）などを歴任。1999年には藍綬褒章を受章した。関西学院では2004年から評議員、理事。2013年4月、理事長に就任した。



大橋太朗 関西学院同窓会 会長  
1962年3月、関西学院大学商学部を卒業し京阪神急行電鉄株式会社（後の阪急電鉄）に入社。1999年同社代表取締役社長、2003年代表取締役会長、2005年より相談役を務める。  
このほか学校法人宝塚音楽学校理事（現在）、学校法人関西学院理事（現在）などを務め、1999年藍綬褒章を受章。2008年4月から関西学院同窓会会長に就任した。

後退してしまいます。なぜなら時代が前に進んでいるからです。

自ら先んじて新しい道に行くことは大変怖いものです。学校という組織は先を突っ走るのは難しいのかもしれない。だからこそ意識して遅れることのないよう、物事を変えていく努力をしなければならないと思います。変わろうとすれば、当然失敗も起こります。失敗を恐れずに学内の一人ひとりが変化しようと思っほいいですね。人はもともと保守的な生き物ですから今の状態に浸かっている方が心地いのです。でもそれではいけません。どんどん変化していく組織でありたいと思います。

### OB・OGも 個々の活動を 外に向けて発信し 関西学院のPRを

大橋 同窓会にはどういったことを期待されますか。

をもっと学院自身がやっていかなければいけないと思っています。

学校は学生・生徒・児童のためのものですから、当然、ベクトルは彼らの方に向かいます。中への引力が強い。ですから同時に、これを外にも向けようと思えば、かなり意識をして取り組まないといいけません。

大橋 まずは学内の関学ファミリーを大事にするというのは当然のことです。しかし、ここ最近、宮原理事長がおっしゃったように、外に向けて発信することの重要性が認知されてきたように思います。ずっと中にいると、自分たちが内向きになっていることにさえ気が付きにくいのですから。

宮原 中にいると、そこで過ごすことがだんだん心地良くなってきます。落ち着くんです。家族と同じです。だから外に向くには結構力が必要です。決して誰かが内に向かわそうとしているわけではなく、学校というものの自体が内に向かわせる存在なのでしょう。

宮原 関西学院のOB・OGはみんなスマートさを持たれています。また、スクー

ルモットー“Mastery for Service”が指針としてきちんと自身の基本にあり、それぞれの場所で活躍されています。今後、それを外に向けて発信していただければ関西学院のPRになります。何人かが集まって活動、発信していただければより有効だと思います。さらに、学生たちに見えるかたちにしていただくと「われわれの先輩はこんなに頑張っているんだ」と、関学ファミリーのつながりを感じることができると思います。

大橋 加えて、私は地域社会に貢献してほしいと考えています。そのことで「関学ファミリーここにあり」を、さらにアピールできますから。同窓生には、NPO法人を通じた活動をされるなど、社会貢献に熱心な方が割合多いと思います。

### 優秀な先生方の 活動や研究内容を

#### PRする

#### 仕掛けづくりを

大橋 関西学院には優秀な先生がたくさんいらっしゃいます。それをもっと発信していくべきではないでしょうか。

宮原 多くの先生方は積極的に、海外も含めて活動されておられますが、更に効果的に「見える化」を意識することも必要でしょう。また同窓の方々にもお手伝いいただいて、外へ引っぱり出していただきたいですね。産官学民での共同や、国際学会やメディアに出ることはもちろん、いろいろな場面でご自身の研究内容などを発表してほしい。学院としては、活動の範囲を広げることが面白いと先生方に感じてもらうような機会を提供するとともに、思い切りそれに取り組める環境をつくっていきたいと考えています。

大橋 「母校通信」でも先生方の研究内容を掲載して

### 大学の実態は

#### 外からは見えにくい

#### 同窓生などに

#### わかってもらう工夫を

大橋 逆に、同窓生が一番何を知りたいかといえは、今、学院がどうなっているかだと思います。だからもっと、「学院の今」をわれわれに分かるかたちで広報をしてほしいですね。私は最近、関西学院の広報が変わったと高く評価しています。駅貼りの連続企画の大きなポスターなど、印象に残りました。しかし、まだまだ十分な気がしています。

宮原 学院の今を、同窓生の皆さんを含めた外側の人たちに発信するということですね。私も理事長となり、日々学院のことが分かってきました。今までは学院の外から見ていたわけですが、外側から見えたものと実態とはギャップがあります。実態を知るのは簡単なことではありませんが、それでも、やはり今の状況を外に向けて知ってもらえるような工夫

いこうとしています。あと、関西学院同窓会の東日本センターには、先生方の著作がずらりと並んでいるのですが、本拠地の西宮にはそういうコーナーがないのですね。関学ファミリーの活躍の様子を学生や同窓生が知ることが出来る空間があればいいと思います。

### 大学が取り組む

#### グローバル人材の育成に

#### 同窓会として

#### 後押しできること

大橋 関西学院の現在の大きな柱が「グローバル人材育成推進事業」です。実践型の世界市民育成プログラムですが、私たち同窓生は、この事業に関して何かお手伝いできることはないのでしょうか。

宮原 日本人は世界の国々について、わかっているようでわかっていないですよ。その国の生活を知るだけでもグローバル化だと思っのです。例えば、関学ファミリー





支部におかれましては、今後、海外に向いて行く若者を積極的に受け入れていただき、一緒に活動していただければ幸いです。

国内にいらっしゃる方々にはもっと世界を知っていただくために、関学が持っている

知識や機能を積極的に利用してほしいです。

学院と同窓生の皆さんがより良い関係を築き、125周年を経て、さらに成長する大学となるよう、一緒に知恵を出していきたいと考えています。今後ともよろしく願います。

**大橋** 同窓会はこれから女性の会員も活躍するべきです。女性の方々が活動に参加しやすい、敷居の低い同窓会にしていかなければならないと思っています。例えば、総会などもベビーカーを押して参加できるようなものにしていきますので、女性の皆さま、ぜひ足を運んでください。

とにかく、一人でも多くの方に同窓会活動に参加してほしいです。そして、関学ファミリーの絆を強めていきたいと思っていますね。母校の発展と一緒に考え、行動できる同窓会にしていきましょう。創立125周年記念事業に向けての募金にも、ぜひご協力いただきたいと思います。



はいろいろな国に住んでいますし、留学生もさまざまな国から来ています。この方たちには外国のことを話していただくだけでも大きな勉強になり、グローバルにつながると思っています。例えば、私が会社にいたときに、アメリカの会社の役員たちに彼らの日常生活について聞いて回ったことがありました。彼らは朝早く会社に来て、15時ぐらいまでに仕事を終え、その後はボランティアとか地域コミュニティでの活動をしているのです。ある人は車にヘルメットがあつたので「これは何だ」と聞くと、「地域の消防士をしているんだ。火事が起これば、急いで消火活動に当たるんだよ」と言うのです。私はといえば、

当時は仕事しかしていませんでした。ものの考え方が全然違います。ハッピーリタイアメントという言葉は、日本ではお金が十分あって悠々自適ということを指すと思うのですが、アメリカではお金より生活が充実していることを重視していると感じました。

**大橋** 海外で活躍している同窓生をつなぐことができればさらにいいでしょうね。日本にいる同窓生とも、もっと関わられるような仕組みが必要ですね。

**宮原** ただ、海外に住む人たちをつなぐのは、実際にはなかなか難しいです。やはり最初はそれぞれが活躍して、その数が増えていくことが大事ですね。

これからは海外に出て行く卒業生がもっと多くなると 생각합니다。グローバル人材育成プログラムでは、毎年七百人のグローバルな人材を育てることにしており、10年続ければ七千人になります。世界の国々に散らばっていく関学生を、同窓生の皆さんで後押ししてあげてほしいと思います。近くにいる人が

ちゃんと見てあげて、サポートしてあげる。これは大切なことです。人間は見られることによって、さらに成長します。「見てもらっている」という気持ちは力になるのです。

### 本当の意味での 知力を上げるため 対話を中心とした 考える機会を提供

**宮原** 私は関西学院大学の学生のレベルを上げたいと考えています。レベルを表す分布図は大体山型になっていますが、その山を右側に動かしたいのです。つまり学生の知力を高めたいのです。そのためには知識や情報だけを教えるのではなく、学生に考える時間を与えなければなりません。仕入れた情報を考え、自分の答えを出して、それをアウトプットしていく。こういう機会を与えることが重要です。それには対話が必要です。経験を積んだ同窓生の皆さんと対

話をする時間を設けるのも一つだと思います。

**大橋** 学生と対話をして、お互いに高め合う関係になるためには、同窓生も、個々がそれぞれの世界で活躍できるように努力をしないといけませんね。社会に貢献しながら、自分の個性を伸ばしていくことが重要です。

**宮原** 知識だけではなく、知恵や行動力を備えた、本当の意味で知力のある人間を育てる教育機関でありたいと思います。

### 卒業生へのメッセージ

**宮原** 関学ファミリー全体が外に向かって行動するという意識を持つてほしいです。大学はグローバルな人材をもっと育てていきます。関西学院で学んだ留学生も世界で活躍します。そういう人たちを同窓生の皆さんがフォローして、関学OBとしての意識をしっかりと持てるように働きかけ、サポートしてほしいと思います。海外

### 『対談を終えて』



同窓会と学院の関係を改めて考えさせられた。20万同窓の「母校の発展を祈る気持ち」が一つであるのは間違いないが、もっと活動の視野を広げる必要があるのではないかと感じた。ともすればそれぞれの活動がセクショナリズムに陥っている可能性もある。それを是正するにはやはり同窓会活動への関心を高め、参加者を増やすことが肝要だと思う。

母校から同窓生に対する積極的な情報発信も願いたい。来年にかけて繰り広げられる創立125周年記念行事が絶好の機会ではないだろうか。今まで無関心であった層へこれらの行事を通じて同窓会活動への参加の働きかけを積極的に行いたい。それによってこれまでの「声なき声」をより顕在化し同窓会活動の活性化につなげ、同窓会が新理事長の大きな支えになればと思う。